

【講評】

倉吉農業高校は、「農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切に知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成をめざす」ことを学校ビジョンとして掲げ、それに沿った教育を推し進めている。教育課程においては、基礎・基本を大切に、地域社会との連携、生徒のコミュニケーション能力の向上を目標としている。

本校は現状、教育課程、進路指導、生徒の状況、組織運営のいずれにおいても非常に良い状態にあると言える。その背景には、特色ある学校を目指す経営方針と、全教職員の愛情ある教育への思いがあり、かつ共通の目標に向かった日々の地道な活動があると思われる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 朝読書と全員担任制は、共に良く機能している。教職員全員が担任となって一人称で生徒指導にあたるなど、教職員と生徒の距離を近く保ち、思いやりをもって指導している点が評価できる。今後も継続していく中で、モデルケースとなるような成果が得られることを期待している。
- ② 農業高校の特性をいかした地域社会とのさまざまな関わりは、生徒の自主性や責任感を育む上で大変有意義である。例えば倉農祭では、生産から販売までの一連の営みの成果を発信していて、教育効果のみならず、地域との連携面でも意義深い。
- ③ 「協同学習」公開授業研究会を企画・実施し、授業改革の方法について研究していることは、高く評価できる。
- ④ 図書の利用が盛んであり模範的である。今後も、読書活動を推進していただきたい。
- ⑤ ニュージーランドの交流高校への研修や同校からの生徒受入は、今日のグローバル化の時代にとって有益である。
- ⑥ 高い専門性を追求するために外部講師を招き、実学に即した授業を行っていることは効果的である。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 講義型の授業においては、学習動機付けの工夫が課題であるので、「協同学習」公開授業研究会等の中で議論していただきたい。
- ② 実習を伴う専門科目の授業が多いことや寮の管理などのため、教職員への過負荷が懸念される。適切な負荷分担によって、教材研究の時間や生徒に関わる時間の確保に努めていただきたい。併せて、時間外勤務の抑制に取り組んでいただきたい。
- ③ 保護者アンケートで要望されている自宅学習の推進は、学校側でも認識されている従来からの課題である。学習の動機付けなどを工夫することによって、一歩ずつ改善していただきたい。
- ④ 広大な校地とさまざまな設備を使い、生物を対象にして教育が行われるため、安全には十分配慮し、安全点検を教職員全員で一斉に行っていただきたい。
- ⑤ 手話の向上に向けた取組が少ないので、LHR（ロング・ホームルーム）などの内容を充実させ、取組を強化していただきたい。